

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694100112		
法人名	社会福祉法人 香東園		
事業所名	グループホーム 香東園やましな (貴船1番地)		
所在地	京都市山科区西野野色町15-88		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年9月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ロビー、共有部分が広く、地域の方のボランティアのご協力により、地域交流が盛んにできています。利用者の生活歴を把握し、楽しい生活が送っていただけるように、お一人おひとりに合った外出支援や生活支援をしています。毎日日中は、利用者と職員の笑い声が絶えないユニットになっています。また季節を感じていただけるような、食事献立や、室内の飾りつけに配慮しています。筋力の低下を防ぎ、いつまでも自分の足で立ち、歩行することや、おむつに頼らないトイレでの排泄に力を入れています。自分で行えることは自分でしていただくように支援しています。家族との絆を大切にいただけるように、面会時にはお茶を提供し、水入らずの時間をゆっくりと過ごしていただいています。またアイバットの写真を観ていただきながら、近況をお伝えしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域社会において個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を営むことができるよう支援すること等が謳われた法人の理念のもと、職員間で様々な意見交換をしながら協力して、利用者がその人らしく思い通りに過ごせるような支援に努めています。排泄の支援は業者からも適切なアドバイスを受けながら利用者個々に応じた排泄の自立に向け取り組んだり、日常生活の中で利用者の力を活かして食事作りや掃除などができるよう支援しています。また運営推進会議には複数の隣接する地域の自治会長や民生委員等の参加があり多くの地域の情報を得て利用者と共に行事に参加する等、地域との広範な交流に努めています。重度化した場合には、本人や家族の意思を大切にし医師や看護師、栄養士等と話し合いを重ねながらチームで看取り支援にも取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香東園全体の理念は、入社時に研修を行っている。毎日の朝会時にも復唱し確認している。グループホームとしては、毎年ユニット職員で重点目標を決定し、全員が目標に向かって、実践できるようにしている。	法人理念と具体的に定めた行動指針を事業所に掲示するとともに、理念等を記入したカードを全職員が携帯したり朝会で唱和して意識できるようにしています。理念を基に目標を作り実践に繋げ、リーダーや主任、課長等との面接の際に理念を大切に出来ているか、行動指針に沿って実行出来ているかを確認しています。今後事業所独自の理念も作りたいたと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによる音楽会や俳句の会、お茶会などに参加し楽しませている。また近所の公園や馴染みのスーパー、地域の運動会や催しに出かけていただき、地域の一員として交流できるように支援している。	自治会に加入し運営推進会議等で地域の行事等の情報を得て、利用者と共に夏祭りや町内の掃除参加して地域の方と交流しています。事業所のある地域だけでなく隣接する地域等の行事にも参加しています。地域の保育園の園児との交流や、ボランティアで中高生の訪問があり演奏やチャリディングの披露がある等、地域の方との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の餅つき、祭り、運動会、清掃活動等に職員と利用者と一緒に参加して、地域貢献できるように努めている。地域の方に認知症に対する理解を広めていけるように、勉強会を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に計画作成担当者が出席し、サービスの実際を報告し、地域の方に理解していただいている。また地域の方からの意見や提案などをいただき、公園清掃や地域行事に参加することが出来ている。	会議は家族代表や他法人の職員、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催し事業所の活動や利用者の現状を報告し意見交換をしています。事業所の所在地だけでなく、周辺地区の民生委員や自治会長等の参加を得ており、事業所の夏祭りにボランティアとして協力を得たり、地域の行事の情報をもらい利用者と参加する等、会議を利用者へのサービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退去の報告や事故報告はその都度行っている。また運営推進会議の議事録を毎回報告してサービスの取り組みを伝えている。介護保険の更新認定時や、予防接種の時など相談している。	制度上の手続等で行政の窓口へ毎月訪問し、運営上の疑問点等は電話で行政に確認しています。行政から会議や研修等の案内が届き、各事業所の取り組みを話し合う会議に参加する等、行政と良好な関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、定期的に全職員に研修を行い、全職員が正しく理解出来ている。マニュアルを各ユニットに配置しており、職員が何時でも確認できるようにしている。全職員が利用者の想いを理解して、身体拘束をしないケアが実践出来ている。	併設事業所も含めた事業所全体での委員会があり、年2回身体拘束防止に関する研修に全職員が参加して拘束の定義について学んだりグループワーク等を実施しています。玄関やエレベーター、フロア入口は開放し、外出希望の利用者には寄り添って外出したり傾聴することで気分転換を図り拘束感の無い支援に努めています。	

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会からの研修会のみではなく、認知症の外部研修にも参加し学びを得ている。 日常業務の中で職員のストレスや悩み事になっていることがあれば、解決出来るように、ケア会議、ユニット会議で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者、計画作成担当者は、権利擁護に関する制度を理解している。全職員は個々に必要性が生じていないかを観察し、必要性を感じた場合は、関係者と話し合い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、重要事項説明書を元に説明し、不安や疑問点には丁寧にお答えしている。 入居後には、随時、文書にて説明し、理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には相談窓口の連絡先を明示している。施設内に意見箱を設置したり、職員から積極的にお話をし、意見や苦情を持っておられないか尋ねている。	意見箱や面会の来訪時に相談員が普段の様子を伝え、家族から意見を聞くように努め、家族から職員に話してもらえるような雰囲気作りに努めています。施設全体として職員の言葉遣いについての意見をもらった時にも事業所として話し方や対応方法等を見直したり、普段の利用者の様子を知りたいと意見をもらい日々の様子を伝える工夫をする等、意見をサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に対し、管理者より、個人面談を最低年1回行っている。ユニット会議やリーダーを通して提案できるような、機会を設けている。 また代表者や管理者の方が普段から、各職員が想いを伝えやすいような雰囲気を作っている。	毎月実施される全体会議では全体での行事や情報交換、共有すべきこと等について話し合っています。月2回のユニット毎の会議では個別のケアや業務改善向け検討しています。また、日々職員の様子をみて個人面談を実施し悩みや不明点等を聞いています。身体拘束やリスク、記録研修、防災等の委員があり、委員としての意見を出す機会もあり運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接を実施し、実践能力、委員会活動、自己研鑽などを評価し、外部研修への積極的な出席や、資格取得へのアドバイスや協力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や、毎月の内部研修の他、外部研修に積極的に出席できるような、勤務の配慮をしている。資格取得へのアドバイスや勤務調整をして、個人のレベルアップに協力している。		

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型居住系委員会への参加の他、地元医療法人のグループホーム部会へ参加させてもらい、事例検討を通し、他事業者職員、医師、看護師の意見をお聞きして日々の業務の参考にしていく。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时や事前面談時に、ご本人の想いをお聞きし、また自分からは訴えられない方に対し、周囲からの情報を元になるべくご本人の想いを汲み取れるように、24時間シートを作成し、笑顔でお話することから初めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や事前面談時に、ご家族から、困っていること、不安に思っていること、楽しみとして続けていきたいことなどを、詳しくお聞きして、安心、納得していただけるような説明をし、また質問にお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分で出来ることは継続していただき、本人で出来なくなっていることを見極め、多職種の職員にも相談し、援助することで、再び出来るようになることを目標とした支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の作業を、職員と利用者が一緒に行うことで、教えていただくことがあったり、職員から感謝の気持ちを伝えたりして、自信を持って暮らしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員から家族に対し、体調の変化や、認知症の進行、また良くなっていることなどを、報告、相談し、ご本人の想い、家族の想い、職員の想いを共有し、家族との絆が深まるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状が来た時には、返事を書いていただく援助をしたり、近所であれば、外出支援を行っている。 馴染みの場所や馴染みの人の話題を職員が積極的に行うなどしている。	友人や知人等の来訪時には居室やリビングで椅子を準備してゆっくり過ごせるように配慮しています。馴染みの店に買い物や外食に個別で出掛ける利用者もいます。家族と墓参りや外泊に外出する際には薬や服装等の事前の準備を支援しています。また年賀状が届いたら返事を書いて投函する等、馴染みの人や場との関係継続の支援をしています。	

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の病状や性格を把握し、落ち着ける輪が出来るように努めている。トラブルになりそうな時は仲裁し、視力の弱い方には、表情をお伝えし、難聴の方には大きな声で通訳したりして、一緒に楽しい時間を過ごせるように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭りや、イベントの案内をして、気軽に遊びに来て頂けるようにしている。契約終了時には今後も何時でも、相談を受け付けることお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活リズム、自分で出来ること、援助しなければならぬこと、本人のこだわりなどを把握して、24時間シートを作成し、新しい職員が入っても同じ援助ができるようにしている。また見直しも行っている。	入居時に利用者や家族から面談で意向や希望、生活歴、身体状況等を聞き、以前に利用していた施設や病院からも情報をもらい意向や希望の把握に努めています。入居後は利用者の様子や言葉を日々のケース記録に記入し、会議や日々の申し送りの中で職員間で検討して思いや希望の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を、これまで利用していたサービス事業者や、ご本人、ご家族から収集し、記録している。毎日の会話の中でお聞きしたことをセンター方式シートに記録し、継続した記録になるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通常の過ごし方を観察し、体調の変化や、様子の変化に気付き、心身状態に異常を認めた場合は、看護師と連携を図り、健康管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族のお話、アセスメントの内容から、計画作成担当者を中心に作成した計画を、それぞれの担当者が月に1回評価して見直し、本人や家族にも、機会がある度にご希望を聞いて、計画に反映している。ユニット会やケア会議では、多職種にも意見を聞いて、現状に即した介護計画に変更している。	アセスメントを基に作成された介護計画は毎月担当者が計画の実施状況を確認し、3か月毎に計画作成担当者がモニタリングを実施して見直しをしています。見直しの際には再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き検討し、受診時等に事前に聞いた医師の意見等も介護計画に反映しています。家族にも計画を確認してもらい意見を聞き計画に取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日中の様子や夜間帯の様子に加え、新たに分かったことや、変化を申し送りし、記録に残して、全職員が共有出来るようにしている。リーダーや相談員に相談し、会議で話し合うなどして実践へ反映している。		

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化やその時に生まれるニーズに対応し、ご家族のご都合に合わせて支援している。他事業所との連携や、紹介を行うなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に、様々な教室を定期的に開催していただいている。また近所の保育園児や学生と交流していただくことで、楽しく、音を思い出したりされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿って主治医が決定され、ご家族と協力しながらの受診を行っている。日々の体調管理を行い、変化があれば、医務室、ご家族に連絡し、主治医に報告、相談して指示を仰いでいる。	これまでのかかりつけ医を継続して受診することを基本にしていますが、利用者の状態により通院が困難になった際には往診医に変更してもらっていますが、かかりつけ医の受診は家族の対応が基本ですが、状況により職員が同行したり職員のみで行うこともあります。受診に必要な情報や受診結果は家族と交換しています。週1回看護職員の健康チェックを受け、利用者の体調の変化があれば看護師や其々の主治医と連携を取り対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が利用者の体調に変化を感じた時には、医務室に連絡し、看護師に、受診の指示や、処置を実施してもらっている。(ユニット職員の中に看護師がおり、出勤時に体調を報告し、日常的に体調管理をしている。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急受診になった時には、職員が付き添い、日頃の状態や、変化の様子を伝え、入院になった時には、即日看護、介護サマリーを作成し届けている。入院中も病院へ行き、担当看護師や医師に入院中の様子をお聞きしている。地域連携室には、受診の相談など行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、急変時及び終末期の対応に関する事前の意思確認を行っている。また、医師や医務室と連携し、適時「看取り介護に関する指針」に基づき、ご家族に説明している。本人・家族のご希望に沿った支援ができるように話し合い、最後まで馴染みの関係が継続できるように支援している。	入居時に緊急時や終末期の対応方法等事業所でできることを家族へ説明し、希望も確認した上で同意をもらっています。利用者の重度化が進んだ際に医師の判断のもと改めて家族や医師、看護師、栄養士、職員と話し合い方針を決め看取り介護計画を立て支援しています。家族の協力を得ながら本人の意思を大切に、看護師からアドバイスをもらい対応方法も予め決めて職員が不安になら無いように看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時のほか、全ての職員が、内部研修を1年1回、外部研修を2年に1回は受講しており、日常業務でも、職員同士で確認し合うなどして、急変や事故発生時に備えている。		

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに災害時マニュアルを配置し、ご利用者参加の、夜間も想定した防災訓練を年2回行っている。災害時の備蓄も完備している。また今年度から地域の方と共同の防災訓練を計画している。	訓練は年2回それぞれ昼夜想定で実施し、いずれも消防署立会いの下利用者も参加して避難誘導や通報、消火器を使用した訓練を行っています。消防団の会合で地域の方へ訓練への参加を依頼しており、次回は参加を得た上で訓練を実施する予定です。法人として水や食料を1週間分の備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレは中から施錠できるようになっている。確認が必要な時は外から声掛けをして、了解を得てから、開錠している。 自尊心を傷つけないように、声の大きさや、表情に注意を払って言葉かけをしている。	入職時の研修で接遇やマナー等について職員に周知しています。また虐待に関する研修で尊厳や人格を尊重することを職員は学び、馴れ合いや不適切な言葉かけがあれば管理者がその場で注意しています。排泄介助時の声かけは大きさに注意したり、入浴も出来る限り同性介助で対応する等、尊厳や羞恥心に配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で職員や利用者同士の間で馴染みの関係ができて、思いや希望を表現してくれている。また直接表現できない方も、表情や行動などから、想いを汲み取るように心がけている。本人の思いや希望の情報を得た場合には、ユニット会などを活用して、全職員が共有できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各担当者が24時間シートを作成し、お一人お一人の生活のパターンを記録して、新人職員にも、その方の、習慣や希望、体調などを理解して支援できるようにしている。職員付き添いの外出や、散歩など出来る限り、希望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、更衣後、洗顔や整髪、髭剃り促しや、定期的に、理美容時の確認をして、希望の髪型を業者に伝えている。季節ごとにタンスの中の入替えをして、自分で選んでいただく時に選びやすいようにしている。衣類が古くなった場合には、ご家族に依頼し、持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日昼食を利用者、職員と協力して作っている。得意な事、不得意な事を把握し、個々に応じた調理をお願いしている。調理中にエプロンを着用してもらい、手際の良さ、一緒に出来たことへの感謝の言葉かけをしている。栄養課と共同し毎月、季節に合わせた食事やおやつレクを行っていて、いつも大変盛り上がっている。	毎日昼食は事業所で利用者も材料を切ったり、盛り付け、下膳等の出来ることに携わってもらいながら作っており、同じ物を一緒に食べる職員もいます。献立と材料は業者から届き、調味料等の足りない物を利用者と買いに行っています。朝夕は併設の事業所から食事が届き、パンやごはん等利用者の好みに対応しています。月1回は寿司や天ぷら等のイベント食を実施し、個別で出前を取ったり外食へ出掛ける利用者もいる等、変化のある食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない利用者は、栄養課や医務室、家族と連携し、捕食を準備していただいたり、カロリー計算して、不足している場合は、プロテインなどを提供している。水分も好みに合わせて提供したり、場所を変え、外食支援を行うことで1日の補給量を確保できるよう努めている。		

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で実施していただける方には声掛け、確認し、自分でできない方には、職員が毎食後、それぞれに合わせて、口腔ケアを実施している。訪問歯科での診察、歯科衛生士による、週1回の口腔ケアを実施していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し、尿意や便意が曖昧な方には、適切な時間に声掛けを行い、誘導している。すべての利用者にトイレでの排泄をしていただけるように支援している。	トイレでの排泄を基本とし、ユニット毎に1人ずついる排泄担当者が利用者毎に排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、利用者に応じた声かけや案内のタイミングを工夫し支援をしています。業者から排泄支援の方法や使用する排泄用品のアドバイスをもらいながら支援を継続することで改善し、殆どの方が布の下着で過ごしており、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から、水分や食事の摂取量に注意し、便秘気味の方には、牛乳や果物などの摂取、運動などを実施してもらいなるべく自然排便を促している。医師、医務室に相談し、排便の間隔を把握し、その方に応じた下剤の管理、服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜の浴槽で個浴となっており、一人ひとりのペースに合わせて対応できている。自分でできることは自分でしていただき、ゆっくりと入浴していただいている。なるべく希望に沿って入浴していただいている。	入浴は午後からの時間帯を基本に利用者毎に曜日を決めて週2回以上となるように支援していますが、希望に応じて回数を増やしたり随時の入浴等、臨機応変に対応しています。入浴拒否が見られる利用者には声をかける職員を代えたりタイミングを工夫して無理強ひせずに入浴してもらっています。好みのシャンプーやリンスを持って来ている方もおり、ゆず湯や菖蒲湯を実施する等入浴が楽しいものとなるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、居室で過ごされる方、リビングで過ごされる方、それぞれ自由に過ごしていただいている。就寝時間や起床時間、日中の休息、本人の様子をみながら、希望に沿った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情報を全職員がいつでも確認できるように、ユニットに配置し、薬について把握できるように努めている。用法、用量は都度2人で確認し誤薬のないようにしている。体調の変化があれば看護師に報告し、屯用薬の服薬や、服薬についての相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりに役割ができていて、洗濯物量みや食器洗い等、それぞれの力を発揮していただいている。ご家族から嗜好品をお預かりし提供している。昔聴いていた音楽を流したり、お茶会や手芸クラブにも参加され楽しまれている。		

グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、戸外に散歩に行きたいという方もおられ、強雨の日以外は付き添っている。花見や紅葉狩り、買い物など、馴染みの場所を通って行くなどしている。 近所の公園などへの散歩には、地域の方にも声をかけていただくなど、暖かく見守っていただいている。	希望にそって毎日散歩に出掛ける利用者もいますが、散歩に出ない人も屋上を歩いたり外気浴を楽しんでもらっています。体力に不安のある方は車いすですで外出しています。数人ずつ分かれて全員が花見へ出掛けたり、個別でドライブや買い物、敷地内にある喫茶店等へ外出したり、地域の行事への参加等、出来るだけ外出する機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分で所持し管理ができる方はおられないが、小口現金をご家族からお預かりしている。嚴重に事務所で預っていることとお話し、欲しいものがあれば、何時でもお渡しし、支払っていただく旨を都度伝え、買い物同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解が得られている場合(時間帯など)は本人の希望で、お繋ぎしている。相談員が近況報告する時なども、タイミングを合わせて、お話ししていただいている。年賀状や手紙が届いていた場合は返事を書いていただき、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置に気を配り、お一人おひとりが気兼ねせずに、居心地のよい場所を提供できるようにしている。トイレの表示や居室には、手作りで家庭的な表札を、利用者様自身が確認しやすいように掲示し、活用していただいている。絵画や観葉植物、生花を飾って、和めるように配慮している。	リビングに利用者が折り紙で作った鶴や季節を感じられる生花を飾り温かい雰囲気を作り、利用者同士の相性等も考慮してテーブルを配置しています。好みの場所を選び1人や少人数でゆっくり過ごすこともできるようにソファも配置しています。掃除や換気は毎日行い利用者もモップ掛け等に携わってもらい、快適に過ごせる共用空間を作り努めています。時計などは利用者の目線に合わせて掛け、生活しやすいように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居してから、2~3年が経過する方がほとんどで、それぞれ馴染みの方ができている。座る場所も自分の心地よいと思われる場所に自ら座っておられる。 新聞を読んだり、歩行運動をされる場合の場所も確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人とご家族と相談し、ソファや家具を持ってきていただき、安全にも配慮し設置している。写真や作品などを飾り、楽しかった時を思い出していただけるような工夫をしている。	居室にはテレビやソファ、椅子、机等の馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者と家族が相談して配置しています。大切にしている位牌や家族の写真、利用者が作った人形や家族が描いた似顔絵飾り、その人らしい居室となっています。利用者の希望に応じて畳を敷き布団で休むことも可能です。シーツは週1回交換し掃除は職員が毎日行い、快適に過ごせる居室を作り努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最後まで現在持っておられる能力を継続できるよう、また援助することで、できなかったことができるようになっていたけるよう目標設定し、月1回以上はケア会議、担当者会議を開催し、他職種の意見も取り入れ、実行に移している。		